彩色遊びに就て

東京女子高等師範學校
附屬幼稚園保姆　つ　や　子

刺戟の多い都會に生活する小供達は神經質でこせ〳〵して居て落ちつきのないことが多く、ことに幼稚園の樣な集團生活をする場所では、移り氣で散漫になり易く、周圍の力に支配されて次から次へと遊びが轉じて行き、一事に本眞劍になつて熱中するといふ場合が極めて少ない樣に思はれます。勿論保姆の細心の注意と深い知識によつて、小供の個人性を充分に尊重し、各自が熱中して遊べる樣な境遇をつくり、周圍を整頓してやると云ふ事は保育の理想であり、いつもそのために努力すべきですが、また幼稚園は集團生活であると云ふ事をまぬかれない以上、組全體幾人かの小供が一所になつた時に、しつくりと落ちついた靜かなそして皆がたとひ五分でも十分でも無言で一つの事に沒頭する樣な場合が願はしいと思ひます。それがたゞ「お行儀をよくする」と云ふ樣な大人の生活から割り出した壓迫的な事でなしに。又生活の形式から小供の氣分を支配すると云ふ事のかはりに、內容に於て卽ち小供の興味から導き出して、卽ち空間的でなしに時間的に、ある間を小供が落ちついて一つの遊びに熱中し、それが集團的に行はれて、お互に他の靜肅を妨げないと云ふ樣な狀態が願はしいと思ひます。しかし何分ゴム毬の樣な彈力にとんだ力のあふれた小供、一寸の刺激にもすぐに注意が散漫する小供達が一人二人でなしに二十人三十人と一所になつて居る時に、上述の樣な願ひを全く不可能の事かと疑ひました、けれども忠實に小供の生活を觀察したら何か適當な方

法が考へ出せるかと長い間工夫して居りました。ある時小供が畫をかく時に自分のかいた臨畫(リンカク)のおぼつかない汽車や電車の屋根、さては人の着物を一生懸命に彩つて居るのを見ました。卽ち小供が畫をかく時に一つの過程として通る塗抹の時期にあつたのでした。そこでこの期を利用して何か小供に興味あるものを彩色させ、小供自身が知らず識らずこれに沒頭してしかもその彩色の間だけ無言で靜肅にする事が出來たならばどんなによい事であらうと考へました。

しかしどこまでも小供の興味中心でありたいので、その圖案を初めて斷片的に器物とか景色とかにして考へ、また小供にさせて見ました。塗抹の間の靜肅と熱中とは可能であるといふ事を見ました。しかし更にその方法を工夫して、小供達が最もよろこぶ毬の圖案をつくり、これを騰寫版にして與へて見ました。豫め彩色したものを各机に置きます。小供のその毬をぬると云ふ事に對する興味、喜びは大したものです。しかも小供が熱中して無言の間に大勢が遊ぶと云ふ保姆の方の計畫はよく達せられるのを經驗しました。今最近去る二月二十二日に於ける有樣を次に記して見せう。

皆に一枚づゝ騰寫版にすつた毬の圖案と一揃の鉛筆とを與へます。各机には豫め保姆の彩色したものを置きます(これは小供の中で模倣したいものゝために)。初める前に最も樂な姿勢をとらせて「お口を縫ひませうね、もし中途で御用が出來たら音のしない樣に立つてそつと先生の所へいらつしやい」と申しました。小供はもらつた圖案をながめて大よろこびです、いよ〳〵初めるともう本眞劍になります。偶々隣りのをのぞく小供も直きに自分のにもどつてぬつてゐます。熱中するので鼻液の出る小供も出來ます。すると自分でこつそりと足音をしのばせて立ち、室の一隅で靜かにかんでまた着席して塗りはじめます、うれしそうに、一生懸命に。十分位は何の音もしません。やがて

一兒がこつそりと先生の所へ持つて來て「先生出來ました」と耳もとでさゝやきます。「よく一生懸命になさいましたね」と小聲に云へばにこ〳〵して「また今度させて下さい」と云ひ、しづかに戸外に出て行きます。かくてすべてが殆んど無言の内に音なく行はれ、これがわづか五六歳のあつまりで居る室かと思ふ樣な靜肅さ、むしろ一種の壯嚴な氣分のたゞよふ感がします。かくて思ひ〳〵に自分がくたびれる迄熱中します。時々かはいらしいため息がきこえます。手首がくたびれるためか手をふつてゐるのもあります。あまり疲れさせてはと思つて、「少しお休みしませう」と耳元でささやいても、紙にかはいゝ頭をうづめる樣にして夢中になつて居る兒もあります。あんまりの集注にむしろ驚かされました。時間をはかつて見るとならば最短十分から最長一時間の間の無言がたもたれました。出來た兒はしづかにこつそりと戸外に出て行きます。時々戸外に出た小供が先生を呼びに來ても、戸をそつとあけて見て、まだ仲間が塗つて居るのを見ますとまた音もなく戸をしめて出て行きます。中にはひつて來て物を云ふ小供も耳元でさゝやきます。かくて熱中し得る靜かな數十分がつゞきました。

さてその塗抹の結果はと見ますとまたよく小供の個人性が表はれて居ります。そゝつかしい兒はやはりそゝつかしく、線書きに無頓着に鉛筆をはしらせてゐますし、落ちついた兒は手ぎれいに致します、獨創的の兒は彩色の工夫をこらして居りますし、模寫性の兒は机上の保姆の彩色したものの通りにします。疲れやすい兒は中途でやめてゐますし、根氣のつよい兒は丁寧にぬつてゐます、これら十人十色ですが各々その彩色の間は皆相當に熱中し沒頭し靜かに無言に十分乃至以上を過したのでした。

そこで私のこの彩色をさせる目的は小供を本眞劍にならせる事でありますから出來上つたものゝ

上手下手を考の外に置きます。遲くまで一心にやつてゐる小供が必ずしも精巧に手ぎれいなものを作るとは限りません。一時間も熱中してゐた菊代さんはまだ鉛筆が充分に使ひこなせず同じ所を幾度もこすつて居つた小供でした。けれども面白くてして居る事であれば活動それ自身が貴いのですから、結果の如何は問題でないと思ひます。このやり方を小供が喜ぶといふ事は事實ですし、しかもある時間を落ちついて、靜粛に熱中する事が出來る事ですから一層考究すれば效が多からうと思ひます。

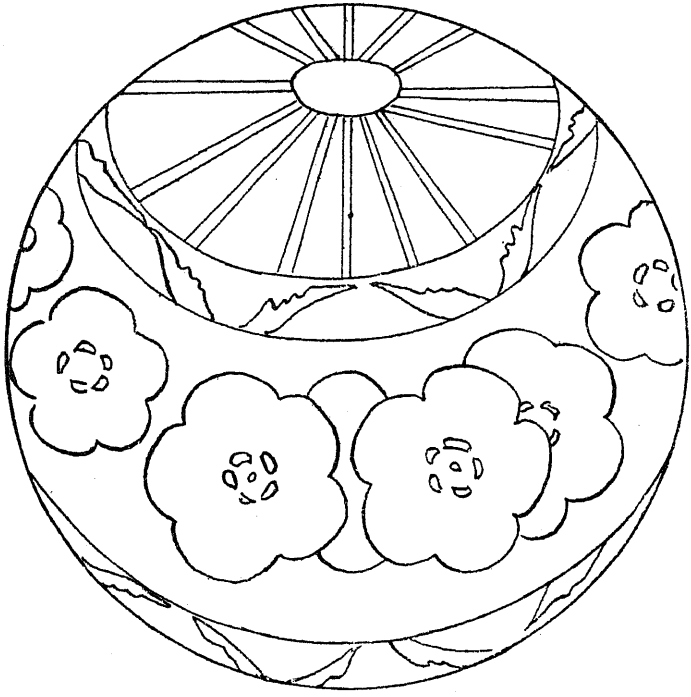
これを實行する上に考へて居りまするは先づ一ケ月に一回位これを課し、その一回を充分に小供にもまた保姆の有する目的にもかなふ樣にしたいと思ひます、毬の圖案を四季十二ケ月に應じて、例へば一月ならば松竹梅とか、二月梅、三月櫻、四月蝶など、美しい模樣をあしらつて工夫したい、そして彩色したものはその毬の臨畫を剪つて手帳にはりつけます。嘗つて試みた時、小供等ははりつけたものを眺めて非常なよろこびでした。「またさせて下さい」とは彩色のあとに小供からかける言葉です。しかし深い意味をもつてする事ですからこれをさせる以上、亂用でなしに小供の興味の點からもまた保姆がこれを課する目的からも徹底させたいと思ひます。この彩色のあとでは遊戯をさせるのが適當でありませう、小供相當にはりつめて夢中に致しますから、あとは充分に活潑に運動させた方がよいと思ひます。

たゞ綿密な細心な注意をもつて愼重に行はなければ保育上弊害を伴ひ、又あやまつて行はれる事を恐れてゐます。

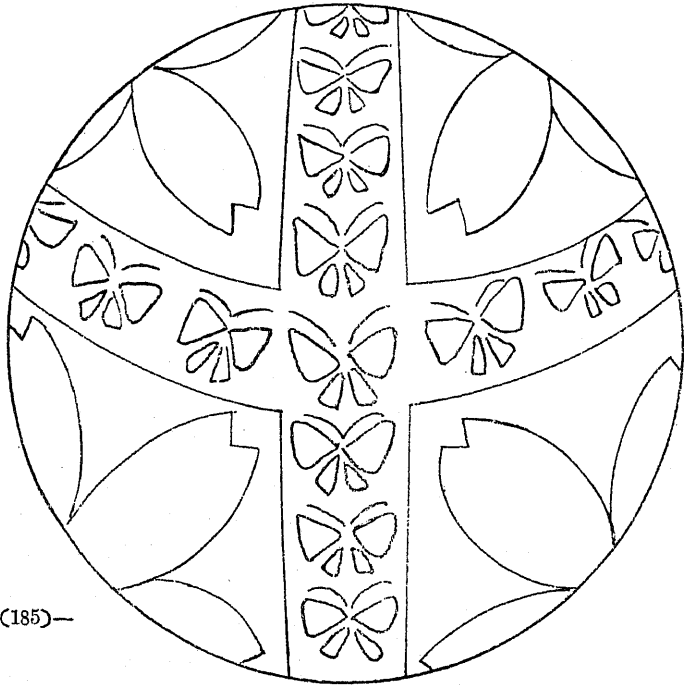
實際の一例（全幼兒二十一名）二月二十二日のもの

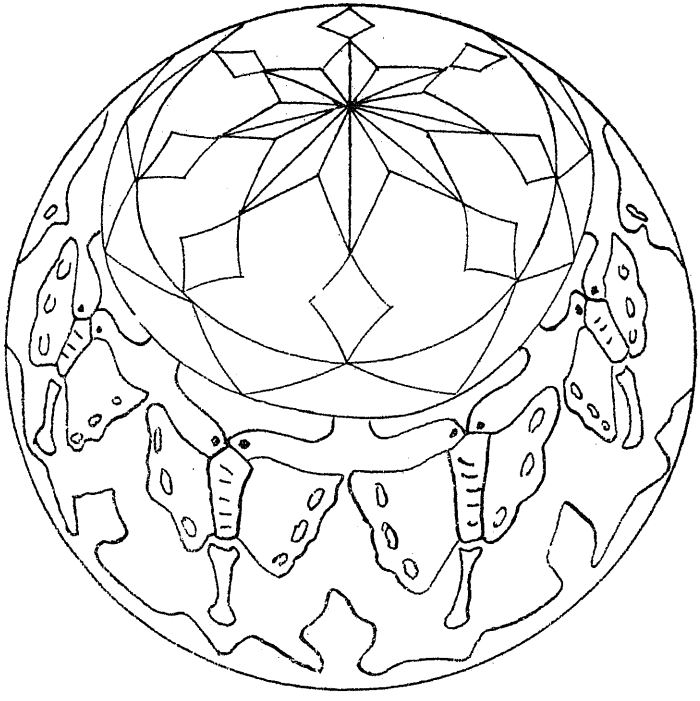
圖案の一例

二月　梅

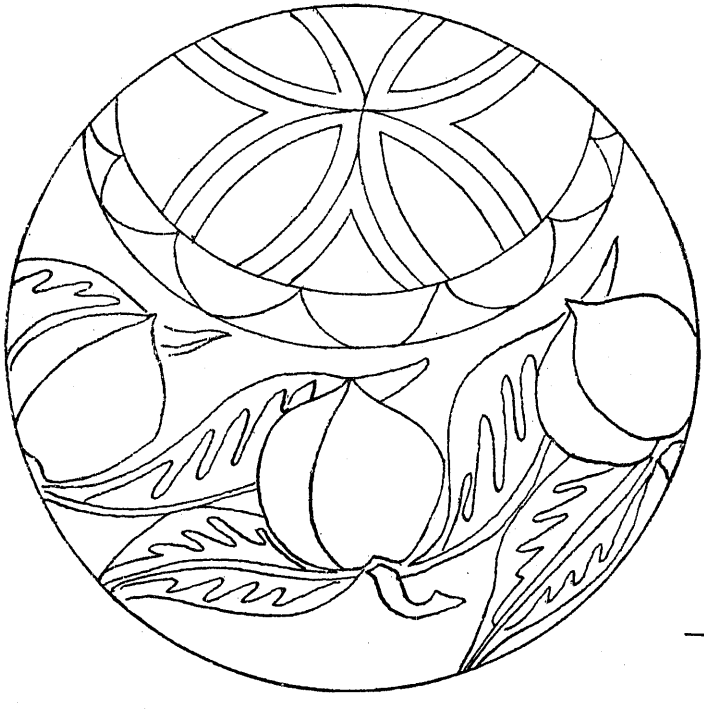


三月　櫻に蝶





四月蝶



六月桃